

地域連携 渉外担当の役割 ～摂食嚥下外来の取り組み～

【目的】アフターコロナで、地域医療の重要性が今まで以上に重要視されている。済生会東神奈川リハビリテーション病院は横浜市神奈川区に立地し、回復期病床 106 床を担う病院である。神奈川区は都市部特有の人口動態を示し、高齢者、若年者共に人口増加するエリアである。

地域連携では、広報誌等だけでは、伝わらない情報もあり、直接訪問、面談して、情報提供・収集する事は確実な情報活動に繋がる。今回、渉外活動を通じて、「摂食嚥下外来」の案内を地域の開業医に紹介した。そして、プッシュ型の渉外活動も含め、病院からの情報を伝達し、同時に「開業医からの声」を聴く活動を検証した。

【方法】演者が担当した 2022 年 5 月以降の医療機関（主に開業医）に訪問、面談した訪問日報を元に PDCA を回した。分析内容は、毎週の医事課長への報告、毎月の院長出席の地域連携会議の報告後、地域連携に係る会議等でも共有した。

【結果】2023 年 12 月 15 日時点で、訪問先のべ回数 334 回（訪問先 123 軒、面談数 321 件）であった。

紹介先は 21 軒で(病院 7 軒、開業医 14 軒)紹介数は 31 件であった。※件数は初診紹介数、

当初の渉外活動では、「摂食嚥下外来」の外来枠の周知徹底と課題抽出に努めた。

2022 年 5 月以降の渉外活動開始後、2 か月後で、エリア該当医療機関の 7 割、6 か月後で 9 割の医療機関に第 1 回目の情報伝達を完了した。2 回目の訪問では初回訪問での課題の対応策を面談で実施した。「摂食嚥下」に関しては、在宅医療に関わっている医療機関ほど認知度が高く、多職種との連携の大切さが明確となり、医師会の支援も頂きながら活動した。現状では、まだまだ、「摂食嚥下」の関心が低く、繰り返しの訪問で、摂食嚥下の話題提供が大切であると考え。

【結論】プッシュ型の渉外活動を通じて、よりよい地域連携の推進に繋がる経験を活かし、院内外のより多くの医療機関を巻き込みながら、地域の医療、患者の医療に繋がる知見を深めていきたい。